

○ 退院支援について(結果集計)【島しょ町村のみ】

参考資料5

(1) 退院して帰島する際にどのようなことが問題となりましたか。(複数回答可)

	① 要介護・要医療の状況	② 退院前の情報提供	③ 診療情報提供書・看護サマリーの記載内容	④ 島側担当者への事前調整	⑤ その他	回答理由
A	○			○		老健施設のような中間施設がなく、医療と在宅の間でどこに入院(入所)させるか悩むときがある。
B	○	○		○		
C		○		○		帰島前の連絡を頂けると、ケアマネ、診療所で対応できる。
D	○					
E					○ 福祉担当者への連絡調整	身寄りのない高齢者等を退院させた場合に受入態勢の調整が必要なため。
F		○	○			
G		○		○		最低限のADLや病状の情報があれば当院での準備がスムーズになった。
H		○		○		今年度、広尾病院への緊急搬送等の入院症例が無いが上記の情報共有が密であると良いと考える。
I	○	○	○	○	○ 退院処方不足。 船便を考慮して大目に出してほしい。	入院中に介護を要する状態になったり介護度が増す可能性がある場合は連携して事前調整したい。 退院後帰島されると紹介状が届いていないことがある。 投薬が変わったり要介護の場合は退院の旨を連絡いただきたい。 退院前に、現在の様なADLで、どの様な問題・課題が残された状態での退院なのかを事前に情報をいただきたい。
該当数	4	6	2	6	2	
割合	44%	67%	22%	67%	22%	

(2) これまでに問題が生じた本土からの退院について、事例を教えてください。

A	島でリハ入院できるだろう...ということで帰島してしまった患者がいた。
B	病院側から事前連絡がないまま家族から一方的に帰島連絡あり、受入家族調整等もつかず、患者の状態も分からないまま、家族調整も難しいケースで、病院側への連絡について如何にしたら良いのか困った。結果、看護師同士で連絡し情報等入手。キーパーソンが本土の別医療機関を探して転院した。キーパーソンが同時期に怪我で入院し、先に退院予定の要介護者を介護出来ないケースだった。家族についても、要介護者のキーパーソンと姉達が折り合い悪く、島内にいる家族は心労による疾病が発症する等、困難した。
C	独居で社会的サポートが必要な方が、連絡なく帰島されていた結果、内服が途切れてから受診したり、再び悪化して急患として受診された。
I	医療者が退院の旨を知らず、船から下船される姿を見たとき初めて知った。情報もなく患者自身が受診するまで、現在のADLや問題が把握できなかった。心不全、肺炎でヘリ搬送され広尾病院で長期入院した件で、村のケアマネが連絡し介護保険申請となったが、介護・生活支援に関する事前連絡が診療所にあつたら、対応がよりスムーズになったのではないかな。

○ 退院支援について(結果集計)【島しょ町村のみ】

参考資料5

(3) 退院支援に当たり、広尾病院への要望はありますか。(複数回答可)

	①介護・看護が必要な場合の事前連絡	②連絡調整先の一本化	③島しょの医療・介護レベルに応じた入院期間	④看護職との連携	⑤介護職との連携	⑥その他	回答理由
A	○						(1)と同様。
B	○	○	○				
C	○						(1)(2)のとおり。
D			○				
E	○		○				独居や高齢夫婦世帯も多く、さらに福祉介護サービス業者も少ないため。
F	○	○	○	○			
G	○						(1)と同じ。
H	○		○				医療資源に限られる青ヶ島において退院前のADL等生活レベルの情報が必須となるため。
I	○		○	○	○		事前に情報があれば、ある分だけ受入がスムーズに行える。 介護が必要な方・看護が必要な方・地域が見守った方が良い方等、色々な視点から見た情報を事前に頂けると助かる。
該当数	8	2	6	2	1	0	
割合	89%	22%	67%	22%	11%	0%	

○ 在宅医療について(結果集計)

参考資料5

(1) 貴町村において、在宅医療が必要な方のための施策や取組を教えてください。

A	医師による訪問診療。
B	社会福祉協議会と診療所スタッフ(医師、看護師、事務)間において、月1回定期的にカンファレンスを実施。
C	訪問看護、訪問診療、保健師の訪問
E	在宅療養推進協議会による介護に係る多職種ICTネットワークシステムの導入の検討。
G	行っていないので島内で行っているクリニックを紹介している。
H	月に1度の頻度で医療、看護、福祉スタッフがミーティングを行い、見守りが必要な高齢者の情報共有を行っている。
I	定期的に関係団体が集まり、地域ケア会議を開催している。当診療所においては、介護保険サービス(訪問リハ・通所リハ)を実施している。
J	検討中。
K	訪問診療、訪問介護。

(2) 在宅医療を行うための課題は何ですか。(複数回答可)

	①独居に関する こと	②認知症の方に関する こと	③家族の問題	④医療スタッフの問題	⑤介護スタッフ・サービスの 問題	⑥その他	回答理由
A	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/> 医療費の自己負担の支払い困難の方がいる。	本人が必要としない、家族が島内にいないなど。
B	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 資源に限られる中での地域の関わり	
C	<input type="radio"/>					<input type="radio"/> 独居で身寄りのない方、遠方の方	
D							
E	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		独居・高齢世帯の増加及び医療福祉介護スタッフの不足。
F	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
G							
H			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			独居の方の場合、家族が本土に移住していることもあり限界がある。 また、医師1人、看護師1人で医療スタッフにも限界がある。
I				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 島内におけるサービスに対するニーズを把握する必要がある。	
J				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		社会資源が少ないため。
K		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			
該当数	5	4	5	6	5	4	
割合	45%	36%	45%	55%	45%	36%	

○ 在宅医療について(結果集計)

参考資料5

(3) 在宅での看取りを行っていますか。

	①行っている	②以前は行っていた	③行っていない	④その他	回答理由
A	○				
B	○				一昨年はいたが、今年該当者なし。
C	○				独居の方は、看取りというより孤独死に対する検案になりかねず、独居の方の終末期医療はできていない。
D	○				
E	○				
F			○		
G					
H		○			現在は症例が無いが個別の症例に応じて行う体制ではある。
I	○				
J	○				
K	○				
該当数	8	1	1	0	
割合	73%	9%	9%	0%	